

P 票

以下に掲載する事例は、いくつかの典型的なものをシュミレーションし、模擬的に作成したものです。実在する生徒のものではありません。

事例 1 15 歳男子 周囲の状況が読み取りにくく孤立している

生徒の実態

本事例では合計点が36点であり、明らかに対人関係やコミュニケーションのありように困難があると考えられる。興味関心の偏りや独特のこだわりが強いため、仲間関係を築きにくい状態にあると思われる。

学校での様子は、周囲の状況に関係なく思いついたことをしゃべってしまったり、相手に気まずい思いをさせる発言が目立っている。しかし、本人はいっこうにお構いなしといった状況である。部活動でも細かいことを顧問の先生にいちいち聞いてくるので、他の部員から遠まわしに避けられているが、本人は気づいていない。入学時に家族より、アスペルガー症候群と診断されているという情報提供があった。何かあったら家族に連絡して相談するという連携が取れている。

P票	いいえ	多少	はい
1. 大人びた振る舞いをする。(難しい言葉をよく使う、形式ばった感じ、行動が年相応ではない)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
2. みんなから、「おたく」と思われている。(鉄道おたく、アニメおたく、ゲームおたくなど)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
3. 他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている。(マニアックな限定された趣味を持つ)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
4. 特定分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
5. 含みのある言葉や嫌みを言われてもわからず、言葉通りに受けとめてしまうことがある。(冗談や比喻皮肉がわからない、他の人が考えていることを理解するのが苦手)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
6. 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある。(会話がワンパターンで、同じことを繰り返したり、敬語の使い方がステレオタイプ)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
7. 言葉を組み合わせて、自分だけにしかわからないような造語を作る。(自分でキャラクターの名前を勝手につくって、「知らないのー」のようにふるまう)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
8. 独特な声で話すことがある。(うわずっているなど変わった声)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
9. 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す。(唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ、CMをくりかえす)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
10. とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。(得意・不得意な科目の差が激しい)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2

11. いろいろな事を話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない。(こちらの反応に関係なく自分の興味のあることを話し続ける、人と話すとき、自分の話ばかりしてしまう)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
12. 共感性が乏しい。(みんなと笑いがずれる)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
13. 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う。(その場で言うてはいけないことをくみ取ることができず思ったように言ったり、時と場所をわきまえずにしゃべり続けたりする)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
14. 独特な目つきをすることがある。(物を見る時にまっすぐ見ないで斜めから見たり、上目づかいにみたりする、目をキョロキョロする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
15. 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない。	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
16. 同年代の集団に入りにくい。(一人でいることが多い、友人関係がうまくとれず孤立している)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
17. 仲の良い友人がいない。(大の仲良しといえるような子がいない、友人関係が長続きしない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
18. 常識が乏しい。(借りたものは返す、試験は静かに受けるなどの社会的ルールが身についておらず、悪いという意識がない)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
19. 共同の作業で、仲間と協力することが不得手である。(連係プレイができない、ルールがきちんと理解できない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
20. 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある。(会話のときに身ぶりやジェスチャーをうまく使えない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
21. 意図的でなく、顔や体を動かすことがある。(場面に関係のない身体の動きをくりかえす、ぴょんぴょん跳ねる、手をひらひらさせる、首を振る)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
22. ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある。(気持ちの切り替えがうまくいかず、自分の納得がいくまで次のことができない、嫌なことが気になり始めると、その考えを振り払えないことが多い)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
23. 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる。(突然、予定が変更されると納得がいかなかったり、混乱したりする)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
24. 特定の物に執着がある。(キャラクターグッズやフィギュア、切符など)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
25. 他の子どもたちから、いじめられることがある。	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
26. 独特な表情をしていることがある。(場面に合わない表情、舌をチロチロする、眉をしかめる、口をゆがめる)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
27. 独特な姿勢をしていることがある。(斜めに立ったり、つま先で歩いたりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2

支援の方針

- ・家族と相談して、本人に告知をしてもらう(タイミングにコツが要るので、主治医のアドバイスは重要)
- ・自分自身の行動の特徴について納得できるように説明する
- ・こうすればうまくいくという取るべき行動のモデルを提示する

事例 2 17 歳男子 生育の背景に不適切な養育環境が考えられる

生徒の実態

本事例では合計点が 25 点で、基準とされる 22 点を超過している。しかし、2 点となっている項目を見ると 10 番、11 番、13 番、14 番、15 番、16 番、17 番、18 番、19 番、25 番といった対人関係のスキルに関する項目がほとんどである。2 番、3 番、4 番、22 番、23 番、24 番といった興味関心の偏りやこだわり、また 8 番、14 番、26 番、27 番といった独特な行動の特徴には乏しい。このようなパターンを示す場合には、モデルとすべき行動を学ぶことの少ない不適切な養育環境で育った生徒ではないかということ念頭に置く必要がある。

学校では、自分勝手な行動が目立つために友達関係が長続きしない。友達が欲しくてちょっかいをかけるが「うざい」といわれ、集団から浮いている。

P 票	いいえ	多少	はい
1. 大人びた振る舞いをする。(難しい言葉をよく使う、形式ばった感じ、行動が年相応ではない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
2. みんなから、「おたく」と思われている。(鉄道おたく、アニメおたく、ゲームおたくなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
3. 他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり「自分だけの知識世界」を持っている。(マニアックな限定された趣味を持つ)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
4. 特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
5. 含みのある言葉や嫌みを言われてもわからず、言葉通りに受けとめてしまうことがある。(冗談や比喩皮肉がわからない、他の人が考えていることを理解するのが苦手)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
6. 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある。(会話がワンパターンで、同じことを繰り返したり、敬語の使い方がステレオタイプ)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
7. 言葉を組み合わせて、自分だけにしかわからないような造語を作る。(自分でキャラクターの名前を勝手につくって、「知らないのー」のようにふるまう)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
8. 独特な声で話すことがある。(うわずっているなど変わった声)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
9. 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す。(唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ、CM をくりかえす)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
10. とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。(得意・不得意な科目の差が激しい)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
11. いろいろな事を話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない。(こちらの反応に関係なく自分の興味のあることを話し続ける、人と話すとき、自分の話ばかりしてしまう)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
12. 共感性が乏しい。(みんなと笑いがずれる)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2

13. 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう。 (その場で言うてはいけないことをくみ取ることができず思ったように言ったり、時と場所をわきまえずにしゃべり続けたりする)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
14. 独特な目つきをすることがある。(物を見る時にまっすぐ見ないで斜めから見たり、上目づかいにみたりする、目をキョロキョロする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
15. 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
16. 同年代の集団に入りにくい。(一人でいることが多い、友人関係がうまくとれず孤立している)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
17. 仲の良い友人がいない。(大の仲良しといえるような子がいない、友人関係が長続きしない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
18. 常識が乏しい。(借りたものは返す、試験は静かに受けるなどの社会的ルールが身についておらず、悪いという意識がない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
19. 共同の作業で、仲間と協力することが不得手である。(連係プレイができない、ルールがきちんと理解できない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
20. 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある。(会話のときに身ぶりやジェスチャーをうまく使えない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
21. 意図的でなく、顔や体を動かすことがある。(場面に関係のない身体の動きをくりかえす、ぴょんぴょん跳ねる、手をひらひらさせる、首を振る)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
22. ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある。(気持ちの切り替えがうまくいかず、自分の納得がいくまで次のことができない、嫌なことが気になり始めると、その考えを振り払えないことが多い)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
23. 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる。(突然、予定が変更されると納得がいかなかったり、混乱したりする)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
24. 特定の物に執着がある。(キャラクターグッズやフィギュア、切符など)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2
25. 他の子どもたちから、いじめられることがある。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2
26. 独特な表情をしていることがある。(場面に合わない表情、舌をチロチロする、眉をしかめる、口をゆがめる)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2
27. 独特な姿勢をしていることがある。(斜めに立ったり、つま先で歩いたりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2

支援の方針

- ・基本的には信頼できる大人との愛着の不成立がある。良き人間関係を築いたうえで指導するとよい
- ・接する人の態度は、安定した態度で、一貫していることが望ましい
- ・感情的にならず、淡々とよくないことはよくないと指摘する態度がよい
- ・友達の誘い方、遊びの断り方などを具体的に教示し、できればリハーサルをやる

特性理解と支援の方法

1 「対人関係の苦手さ」

「対人関係の苦手さ」とは、以下の3つの困難さが見られる状態のことをいいます。

コミュニケーションの困難さ	•場の雰囲気や相手の状況に応じて、適切な言動を即座に取ることができにくい
想像力の困難さ	•独特な考え方を持っており、相手の心情を推察しにくい
社会性の困難さ	•マナーやルール等、社会性が身につけにくい

このような困難さがあると、他者と円滑な人間関係を持つことが難しく、

- ・学級集団から浮きやすい ・集団になじめず友人がいない
- ・他の生徒とけんかなどのトラブルが多い ・からかいやいじめの対象になりやすい

など、人間関係の問題が多く起こります。

また、不登校や問題行動など二次的な問題も表れやすいといわれています。「いつ周囲とずれて、笑われるか分からない・・・」という不安から、集団生活に不満やストレスを感じながら生活しているからではないかと考えられています。不満が強くなる傾向の生徒は、攻撃的な言動が見られやすく、ストレスが強くなる傾向の生徒は、不登校になりやすい傾向があります。

(1) 特性の理解

「対人関係の苦手さ」がある人は、他者の表情・ゼスチャー・声の抑揚など身体的な情報への反応が遅いといわれています。そのために、適切な言動が即座に取りにくい、表情から他者の気持ちが読み取りにくい、動きから他者の行動を学びにくいなどの困難さが生じてくると考えられています。

一方、言葉を理解する言語的な力は相対的に高いといわれています。つまり、人の動きを見て理解するよりも、言葉で説明を聞いて理解する情報の処理が得意であるといえます。

(2) 支援の方針

特性に合わせた支援

他者の身体的な動きを見てから反応するまでに時間がかかるので、人の動きや場の雰囲気を手がかりにしなくても行動できる環境が必要です。指導・支援の方針は、

- ・事前にすべきことの情報を指示したり提示したりする
- ・言語理解の力を活かし、言語（話し言葉、文字）で情報を伝える
- ・場の雰囲気を理解することが必要な時は、出来事と出来事の繋がりを言葉と絵で説明する

自己理解を深める支援

「対人関係の苦手さ」がある生徒は、

- ・どのような時に場の雰囲気や他者の気持ちを把握できないのか分からない
- ・失敗しないようにどうすればよいか分からない
- ・失敗した時にどうすればよいか分からない

など、自分が困る場面と対処法について理解が進んでいないことが多くあります。「他者との円滑な人間関係を持つ」ことは、自立に向けた大きな課題となります。この点についての自己理解を深める指導・支援が必要です。

ア 指導の目標

自己理解を深めるポイント

- ・ 苦手な場面 自分が苦手としている状況を知る
- ・ 回避の方法 苦手な場面や状況を避ける対処法を知る
- ・ 対処の方法 苦手な場面や状況になった時の対処法を知る

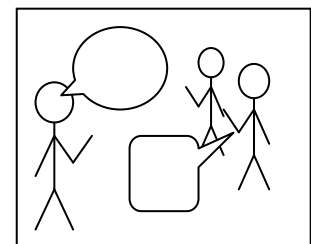
イ 指導の場面

「対人関係の苦手さ」がある生徒は、周囲から自分を見た状態を想像すること（自己の客観的な把握）が難しいといわれています。何も起こっていない時に、自分の苦手な場面や困り感を実感することは少ないようです。自己理解の指導場面は、問題が起こった時、特に「腹が立つ」「傷ついた」など、本人の感情が高ぶって「いつもと違う」と感じられる時が良い機会です。

ウ 指導の工夫

「対人関係の苦手さ」がある生徒は、他者の心情や場の雰囲気について振り返ること（状況把握）が難しいので、指導にあたる教職員や周囲の生徒との状況把握に食い違いが生じやすくなります。また、状況把握が食い違うために、「自分の主張が受け入れられない」と不満を持ち反発することもよくあります。以下の点に配慮して、「状況把握の食い違い」と不満を取り除きながら指導しましょう。

- ・ 生徒の言い分を聞くことに徹する
- ・ 聞き取った状況は、絵（棒人形）にまとめ、客観的に眺められるようにする



棒人形の例

チームによる支援

学校生活では、人と関わる機会が多くなりますので、様々な場面で支援が必要となります。担任だけでなく、教科担任や学年団の教職員、部活動顧問など、対象の生徒に関わりのある教職員が対応の仕方について共通理解する必要があります。

「対人関係の苦手さ」のある生徒は、独特な考え方をもちやすいといわれています。

そのために、他者の考えを受け入れにくく、時には教職員が指導しようとしても耳を傾けないことがよくあります。しかし、良い関係の持てている教職員の話には耳を傾けやすくなる傾向があるようです。

(3) 具体的な支援

教師の指導が受け入れにくいことへの支援

不適切な発言や行動があった時、他の生徒と同じように注意すると自分の発言や行動を正当化することがあります。独特な考え方を持っていること、相手の心情を察することが苦手なことなどが原因と考えられます。

ア 不適切な理由でも言い分を聞いて、いったん受け入れる

イ 「人が迷惑するから」という理由で説明するのではなく、「あなたが損するから」のように、本人のことを中心にした理由で説明する

ウ 命令(～しなさい)ではなく、提案(～してみたら、～する方が賢いやり方だと思ふな)の形で提示する

トラブルへの支援

場の状況や相手の意図を読み違えるためにトラブルとなるようです。

ア 「聞いてもらった」と満足感が持てるように、本人の言い分をよく聞き、状況と食い違う言い分の時は肯定せずに、「あなたはそう感じたんだね」と返す

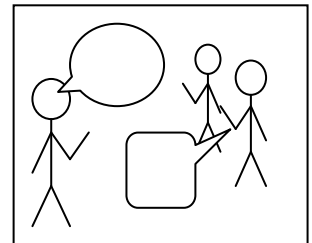
イ 状況をイラストに描いて示し、言動を客観的にとらえられるようにする

ウ 相手の意図や感情を解説する

例：「～さんは　と感じたんだって」

エ 適切な対応について一緒に考え、考えられないようであれば教職員の方から提案する

例：「教室で人に見られるのが嫌なら、休憩時間は図書室で過ごそう」 等



すぐカッとなるなど感情的になりやすいことへの支援

感情的になるのは、感情の処理の仕方を学びにくいと考えられています。本人に合った処理の仕方、気持ちの落ち着かせ方を自ら見つけられるように指導しましょう。自分で見つけられない場合は、教職員が例を出して選ばせてもよいでしょう。

気持の落ち着け方の例：

- ・自分を落ち着かせるために、自分に言い聞かせる言葉を考える
- ・気持ちを紙に書きなぐる
- ・別の所に行って気持ちを落ち着ける
- ・気持ちを落ち着ける物を持つ
- ・気持ちを聞いてくれる人に訴える 等

授業変更や時間変更に対応しにくいことへの支援

「対人関係の苦手さ」がある生徒は、状況把握が苦手なために、先を見通すことが苦手であるといわれています。

ア 口頭で指示する場合は、個別に伝える

イ 1日の流れの中で変更を見通せるように、時間割黒板に変更内容を書いておく

ウ 時間だけでなく、場所や持ち物も必ず伝える

過去の嫌な出来事を思い出すこと（フラッシュバック）への支援

過去の出来事を鮮明に覚えているために、その時の感情も呼び起こされ、腹を立てることがあります。特に、解決の内容に納得のいかなかったトラブルをよく覚えているようです。

ア 気持ちを落ち着かせるために、訴えをしっかりと聞く

イ 嫌なことを思い出した時の対応を教職員と一緒に考える

マナーや常識が身につけていないことへの支援

「室内では上着を脱ぐ」「女性には近づきすぎない」など、マナーや常識を知らないことがあります。また、「太っていますね」「化粧がにおいますね」など、思ったことをそのまま口にしてしまうこともあります。特に、異性へのマナーは社会生活において大切なことなので、しっかりと教える必要があります。

ア 学級全体で守るべきことは、張り紙にして見えるようにする

イ 不適切な発言や行動であることを客観的にとらえやすくするために、状況を絵にして示す

ウ 本人を中心にした理由で説明し、「望ましい行動」の仕方を提案する

例：「あなたが嫌われたら損をするから、 したらどう？」

エ 「望ましい行動」の仕方を教職員と一緒に練習する

例：「先生を さんだと思って、言い方を練習しよう」

集団の中で孤立し、友だちができにくいことへの支援

限定された興味関心、独特な考え方、一方的な会話などから、同年代の生徒と話が合わず、友人ができにくいことが多くあります。孤立感を持っており、「自分の話を誰も聞いてくれない」と不満を感じていることも少なくありません。孤立感が続くとクラスへの所属感が持ちにくくなり、不登校などの二次的な問題が起こりやすいので、注意して声かけをすることが必要です。

ア 教職員が話し相手になる

イ 興味関心が同じ生徒が見つけれられるよう、部活動や同好会へ入るよう支援をする

ウ LHRを利用して、「自分のハマっていること」といったテーマで全員が発表する機会を設定する

エ 一人でいることも過ごし方の1つであると教えるなど、孤立感が深まらないよう

な声かけをする

いじめやからかひの対象になりやすいことへの支援

独特な言動があること、冗談にも関わらず真面目な対応をすることなどから、からかひやいじめの対象になりやすい場合があります。教職員からは、本人はそれなりに対応しているように見えても、心は傷ついていることが多くあります。からかひが続くと、不登校になりやすいので注意して対応しましょう。

ア 授業中などに独特な発言があった時は、からかひの的にならないように教職員がフォローをして、他の生徒に指摘されることを防ぐ

イ 他の生徒からの冗談めいた声かけが認められた時は、注意深く見守り、何度も同じことが聞かれるようなら、冗談を言う生徒を指導する

ウ 他者理解や協力を取り入れたエクササイズ（構成的グループ・エンカウンター¹）を行ったり、教師が認めたり支えたりするモデルとなったりして、日頃からいじめやからかひのない、認め合い支え合う仲間を育てる学級づくりを行う

含みのある表現が理解しにくいことへの支援

比喩や皮肉、暗黙の了解など含みのある表現は、表情や心情、場の雰囲気を読み取る必要があるため理解が難しいことがあります。例えば、「君の机の中は、嵐が通り過ぎたのかい？」「課題の提出が遅れたら、どうなるか分かっているよね？」のような表現です。話し言葉で情報を伝える時には、直接的な表現をする必要があります。

例：「机の中が散らかっているから整理整頓しなさい」

「課題の提出が遅れたら提出点はつきません」 等

集団活動の苦手さへの支援

生徒同士の関わりが増えると即座の応答が要求されることが増えて、見通しが持てないため、LHRなどの集団活動は苦手としていることがよくあります。特に、運動会や文化祭などは生徒が主体となって進める活動は見通しが持ちにくく、不安が増すため、登校を渋る原因になることがあります。

ア LHRなどでは、進行の予定を黒板に書いて、することが見通せるようにする

イ 生徒が主体となって進める活動でも、教職員が橋渡しになって、すべきことの見通しが持てるように配慮する

2 不適切な養育環境での生育

対人関係のスキルに関する10番、11番、12番、13番、15番、16番、17番、18番、19番、25番の項目に集中的にチェックがついた場合は、保護者から適切な養育（衣食住や愛情）を受けることができなかつたなど、不適切な養育環境での生育を考えてみる必要

¹ ゲーム等楽しい活動を通して生徒同士の関わりを意図的に作り出し、人間関係を持つことの良さを味わう活動と、意見交換で他者の様々な考え方に触れることを通して自己理解・他者理解を深める活動の2つで組み立てられています。

があります。このような場合、

- ・人と関わるスキルが学べていない
- ・人との感情を交流させる情緒が未発達

といった状態で成長していることが考えられ、他者と上手く関係が築けずに友人が少なく、学級内で孤立することがよくあります。

人と関わるスキルへの支援

「ありがとう」「ごめんなさい」など、人間関係を円滑にする言葉やそれを使うタイミングが未学習の可能性があります。「ぶっきらぼう」とか「非常識な生徒」として見られがちになるので、養育環境をふまえた理解とスキル習得への支援が必要です。

ア 関係性のない指導者が指導しても反抗して逆効果になることがあるので、本人と良い関係になってから指導する

イ 指導者が本人に「ありがとう」などと言い、心地よさを十分に味わせる

ウ 心地よさを味わうまでには時間がかかるので、あきらめずに声かけを続ける

エ トラブルが起こったときを介入のチャンスととらえ、社会的な規範や善悪の判断を一つ一つ教えていくことが本人にとって良い学びとなる

オ ソーシャルスキルトレーニング²の活動を学級単位で取り入れたり個別に指導する

人との感情の交流への支援

感情や情緒は大人や周囲とのやり取りの中で発達させていくものですが、養育が不十分な環境で育つとそれらの発達が十分ではない場合があります。次のようなことが考えられます。

- ・自分自身の感情を抑えこんでいる
- ・自分の感情そのものに気づいていない
- ・一定の価値観が形成されていない

ア 思いやってもらうことの心地よさを感じられるように、本人の気持ちを指導者が思いやるような声かけをする

イ 指導者が「悲しいんだね」「悔しいんだね」等と語りかけ、本人が自分の感情に気づけるように支援する

ウ 本人の感情を引き出し表現しやすくするために、指導者が感情を受け入れ共感する態度を示す

友だちをつくることへの支援

対人スキルや感情の交流が未発達なため、友だちをつくるのが上手ではありません。学級内で孤立すると、学級への所属感を感じられていないため、教室へ入ることを避けるようになります。保健室登校や不登校を予防するためにも、生徒同士が関わり合える学級経営が必要です。

ア 教師がモデルとなり生徒を「認め支える」声かけを学級の中で多く使い、「認め合い支え合う学級」の雰囲気をつくるようにする

イ 他者理解や協力が必要なエクササイズを行う（構成的グループエンカウンター 等）

² ソーシャルスキルトレーニングとは、マナーなど社会生活を営む上で必要な人と関わる技術を体験学習の形式で学ぶ活動のことです。